

第1学年*組		国語科学習指導案	
平成24年 * 月 * 日 (*) 第 * 校時 1年 * 組教室		指導者 佐藤 英恵	
育成する国語の能力	様々な文章を読み比べ、内容や表現の仕方について、感想を述べたり批評する文章を書いたりすること。		
単元名	様々な古典を読んで、私たちの考え方・感覚のルーツを探ろう		
単元目標	<p>○本文中で使われる語句や文章から筆者の意図を理解しようとし、積極的に活動に参加しようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 (読む能力) (C「読むこと」の(1)のウ)</p> <p>○語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにすることができる。 (知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の(1)のイ(イ))</p>		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
	・本文中で使われる語句や文章から筆者の意図を理解しようとし、積極的に活動に参加しようとしている。	・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。	・語句の意味、用法を理解し、語彙を豊かにしている。
取り上げる言語活動	「人生観」「恋」「教訓」といったテーマごとの班に分かれ、提示された古文を読んで共感できる点とできない点、現代の考え方と共通する点としない点について、グループに分かれて話し合う。		
題材(教材)	『伊勢物語』『蜻蛉日記』『方丈記』『徒然草』(すべて『日本の古典を読む』小学館 から引用)		
単元(教材)について	<p>(1)教材観：『伊勢物語』『蜻蛉日記』『方丈記』『徒然草』はともに平安時代から鎌倉時代にかけて書かれた代表的な古文である。『伊勢物語』は歌物語というジャンルを開いた最初の作品で、当時の人の感情や恋愛事情が分かる。『蜻蛉日記』は当時の女性の生活や苦悩が読み取れる。『方丈記』と『徒然草』に掲載される無常観や人生訓に関する話は、当時の知識人の考えが色濃く記されており、いずれも筆者の意図を理解する教材として適している。</p> <p>(2)生徒観：古文の入門を終えたばかりの生徒達だが、古文を学習する意味を見いだせず、学習態度は消極的である。しかし現在にも共通する人間の心情がはっきりと表れる『徒然草』の「仁和寺にある法師」の話を授業で扱ったところ、内容にとっても興味を持っていた。時代を問わず共通する人間の心情には共感を覚える傾向がある。</p> <p>(3)指導観：古文への学習意欲の向上のため、古文を「現代の私たちの考え方・感覚のルーツ」であるととらえられるようにする。その手立てとして、『伊勢物語』『蜻蛉日記』『方丈記』『徒然草』を「人生観」「恋」「教訓」の3テーマに分け、現代の私たちが「共感できる(できない)」点と、現代と、「共通する(しない)」点をグループ別に話し合い、現代の考え方・感覚のルーツを探る。</p>		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	1 『伊勢物語』『蜻蛉日記』『方丈記』『徒然草』の中から、「人生観」「恋」「教訓」のテーマに合わせて教師が選んだ部分を全員で読み、各テーマごとに分かれてグループを作る。		<p>・文章に描かれた人物、情景、心情などを、表現に即して読み味わっている。 (読む能力)</p> <p>・本文中で使われる語句や文章から筆者の意図を理解しようとし、積極的に活動に参加しようとしている。 (関心・意欲・態度)</p>
	2 『伊勢物語』『蜻蛉日記』『方丈記』『徒然草』の話を「人生観」「恋」「教訓」の3テーマに分け、現代の私たちが「共感できる(できない)」点と、現代と、「共通する(しない)」点を話し合い、現代の考え方・感覚のルーツを探り、グループで話し合った結果をワークシートにまとめる。		<p>・昔の人の様々な考え方に触れ、人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 (読む能力)</p>
3 ワークシートの記述に沿って、各自の感想をグループ内で交流させ、まとめたものをグループの代表者が全体の前で発表する。		<p>・感想をまとめるとき、正しい語句の意味、用法を理解している。 (知識・理解)</p>	

本 時 案 (第 2 時)

<p>本時の目標</p>	<p>『伊勢物語』, 『蜻蛉日記』, 『方丈記』, 『徒然草』を読んで, 古典作品の中のものの方, 考え方を探る。 (読む能力) (C「読むこと」の(1)のウ)</p>	
<p>学習指導</p>	<p>指導上の配慮事項など</p>	<p>評価・方法など</p>
<p>1 本時の目標や学習内容を確認する。</p>	<p>○前時の段階で, 「人生観」, 「恋」, 「教訓」の3テーマの中から一つ生徒に選ばせ, グループを作っておく。</p>	
<p>様々な古典を読んで, 私たちの考え方・感覚のルーツを探ろう。</p>		
<p>2 前時に配布されたプリントにある, 自分のテーマで使用する古典を復読する。</p>	<p>○ただ読むのではなく, 自分のテーマを意識しながら読むように話す。</p>	
<p>3 話し合う観点に沿って, グループ内で話し合う。 <u>話し合う観点</u> ①現代の私たちが共感する点とし ない点。 ②現代と共通する事項としな ない事項。</p>	<p>○ワークシート全てを埋めることが目標ではなく, いくつかの点で意見をまとめることができればいと話す。 ○机間指導をしながら, 話し合いが滞っているグループには, テーマをもう一度確認するなどの助言をする。</p>	<p>・本文中で使われる語句や文章から筆者の意図を理解しようとし, 積極的に活動に参加しようとしている。 (関心・意欲・態度) (記述の確認)</p>
<p>4 各グループごとに話し合ったことを発表する。 <u>発表する内容</u></p>	<p>○あらかじめ前時に発表者も決めておき, 時間を有効に使うことができるようにしておく。</p>	<p>・文章に描かれている情景を, 人物の言動を手掛かりにしながら, 人生や恋, 教訓について自分なりの考えを形成している。 (読む能力)</p>
<p>5 本時の学習のまとめをする。 ①発表内容全体を踏まえて私の考え方・感覚のルーツは古典からも知ることができることを確認する。 ②次回の授業内容の確認</p>	<p>○もう一度自分のテーマに戻って, 話し合いの内容を振り返るように話をする。</p>	<p>(ワークシート)</p>